

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年2月12日

【四半期会計期間】 第124期第3四半期(自平成27年10月1日至平成27年12月31日)

【会社名】 株式会社宇野澤組鐵工所

【英訳名】 Unozawa-gumi Iron Works, Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 宇野澤 虎 雄

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区恵比寿一丁目19番15号
同所は登記上の本店所在地で実際の業務は下記最寄りの連絡場所で行って
おりません。

【電話番号】 該当事項はありません。

【事務連絡者氏名】 該当事項はありません。

【最寄りの連絡場所】 東京都大田区下丸子二丁目36番40号

【電話番号】 03 - 3759 - 4191

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長兼経理部長 田 村 博

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第123期 第3四半期累計期間	第124期 第3四半期累計期間	第123期
会計期間		自平成26年4月1日 至平成26年12月31日	自平成27年4月1日 至平成27年12月31日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高	(千円)	2,911,860	3,267,242	4,062,630
経常利益又は経常損失()	(千円)	72,487	5,075	44,234
四半期(当期)純損失()	(千円)	28,438	14,071	8,972
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	785,000	785,000	785,000
発行済株式総数	(千株)	11,200	11,200	11,200
純資産額	(千円)	1,482,871	1,495,673	1,510,537
総資産額	(千円)	6,703,324	6,947,871	6,605,258
1株当たり四半期(当期)純損失 金額()	(円)	2.55	1.27	0.81
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)	0.00	0.00	0.00
自己資本比率	(%)	22.1	21.5	22.9

回次		第123期 第3四半期会計期間	第124期 第3四半期会計期間
会計期間		自平成26年10月1日 至平成26年12月31日	自平成27年10月1日 至平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	0.78	0.02

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので「連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移」については記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社で営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、財政状況、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等の発生または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀による金融緩和を背景に、景気持ち直しの動きがみられるものの、依然足踏みの状況が続いております。円安・原油安に伴う良好な収益環境や雇用情勢の改善により緩やかな回復基調が続く一方、個人消費が力強さを欠く状況となっており、また、中国・新興国経済の景気減速や地政学上の不確実性など外需環境においても不透明感が拭えません。国内企業の設備投資においても内需・外需環境の不透明感から慎重姿勢が強まる状況となりました。

当社を取り巻く環境も概ね同様の状況で推移しました。

このような環境の中、売上高は前年同四半期比12.2%増収の3,267百万円となりました。損益面におきましては、営業利益14百万円(前年同四半期は営業損失66百万円)、経常利益5百万円(前年同四半期は経常損失72百万円)、四半期純損失14百万円(前年同四半期は四半期純損失28百万円)と増益となり、営業利益及び経常利益段階で、第2四半期累計期間に続き黒字計上となりました。

セグメント別の概況は以下の通りです。

1. 製造事業

製造事業の売上高は2,850百万円となりました。国内の液晶関連真空ポンプの出荷が進み前年同四半期比13.3%増となりました。

損益面につきましては、セグメント損失290百万円(前年同四半期はセグメント損失353百万円)の計上となりました。売上高を製品別に示しますと、真空ポンプは1,685百万円(前年同四半期比20.9%増)、送風機・圧縮機は358百万円(前年同四半期比17.7%減)、部品および修理は794百万円(前年同四半期比17.3%増)の結果となりました。なお、当四半期末の受注残高は、前年同四半期比17.4%増の1,101百万円となっております。

輸出関係におきましては、北米・韓国向けの案件で売上を伸ばしましたが前年第2四半期のインド向け大型案件の反落を補えず、売上高は332百万円(前年同四半期比23.0%減)となりました。

2. 不動産事業

オフィスビル賃貸市場の底打ちにより、売上高は416百万円(前年同四半期比5.0%増)、セグメント利益304百万円(前年同四半期比5.5%増)の計上となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期会計期間の財政状態は、前事業年度末と比べ、総資産は342百万円増加し6,947百万円、負債は357百万円増加し5,452百万円、純資産は14百万円減少し1,495百万円となりました。総資産の増加は、現金及び預金が78百万円減少しましたが、受取手形及び売掛金が230百万円、たな卸資産が216百万円増加したこと等が主な要因です。

負債の増加は、長期借入金94百万円減少しましたが、支払手形及び買掛金が358百万円増加したのが主な要因です。

純資産の減少は、利益剰余金が14百万円減少したことによるものです。この結果、自己資本比率は前事業年度末比1.4%低下し、21.5%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期累計期間の製造事業における研究開発費の総額は23百万円であります。

なお、当第3四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社製品は、ユーザー企業の設備投資の動向に強く影響を受けます。国内の設備投資は盛り上がり欠け、また国内外で競争が激化しており、引き続き厳しい経営環境が続くものと思われれます。このような環境下当社は、(1) 営業体制の強化 (2) 競争力あるコスト・品質の実現 (3) 職場の生産性向上を三本柱とした取組により、増収及び経常利益段階での黒字計上を見込んでおります。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社は現在の事業環境下、入手可能な情報に基づき最善の経営方針を立案するよう努めておりますが、景気の先行きは不透明であり、当社を取り巻く事業環境は厳しい状況が続くものと予想されます。このような状況下、受注の確保・原価低減及び諸経費の削減に重点を置いた諸施策を実施するとともに、業務の質を高め、諸施策を迅速かつ確実に遂行し、環境変化に強い利益体質を確立するよう努めてまいります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,000,000
計	24,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,200,000	11,200,000	東京証券取引所 市場第二部	単位株式数は1,000株であります。
計	11,200,000	11,200,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年10月1日～ 平成27年12月31日		11,200,000		785,000		303,930

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 150,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,024,000	11,024	
単元未満株式	普通株式 26,000		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	11,200,000		
総株主の議決権		11,024	

- (注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)」欄の普通株式は、全て当社保有の自己株式であります。
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式384株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
株式会社宇野澤組鐵工所	東京都渋谷区恵比寿 1 19 15	150,000		150,000	1.34
計		150,000		150,000	1.34

(注) なお、当第3四半期会計期間の末日時点の自己株式数は150,384株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号。)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期財務諸表について、明治アーク監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、従来、当社が監査証明を受けている明治監査法人は、平成28年1月4日付でアーク監査法人と合併し、名称を明治アーク監査法人に変更しております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,638,983	1,560,870
受取手形及び売掛金	1,575,450	1,805,757
たな卸資産	673,735	890,142
その他	26,453	20,915
流動資産合計	3,914,623	4,277,684
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,485,946	1,465,881
土地	631,643	631,643
その他(純額)	94,477	99,642
有形固定資産合計	2,212,067	2,197,167
無形固定資産		
投資その他の資産	5,437	4,235
その他	482,234	477,855
貸倒引当金	9,103	9,070
投資その他の資産合計	473,130	468,784
固定資産合計	2,690,635	2,670,186
資産合計	6,605,258	6,947,871
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	874,766	1,232,959
短期借入金	1,079,969	1,145,725
未払法人税等	2,204	17,442
賞与引当金	63,048	19,402
その他	265,028	262,268
流動負債合計	2,285,016	2,677,797
固定負債		
長期借入金	1,821,983	1,727,386
退職給付引当金	486,846	472,979
役員退職慰労引当金	127,120	127,510
その他	373,755	446,525
固定負債合計	2,809,704	2,774,400
負債合計	5,094,721	5,452,198
純資産の部		
株主資本		
資本金	785,000	785,000
資本剰余金	303,930	303,930
利益剰余金	252,475	238,403
自己株式	28,785	28,785
株主資本合計	1,312,621	1,298,549
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	197,916	197,123
評価・換算差額等合計	197,916	197,123
純資産合計	1,510,537	1,495,673
負債純資産合計	6,605,258	6,947,871

(2) 【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	2,911,860	3,267,242
売上原価	2,509,828	2,798,792
売上総利益	402,032	468,449
販売費及び一般管理費	468,878	454,074
営業利益又は営業損失()	66,846	14,375
営業外収益		
受取利息	606	437
受取配当金	6,983	6,948
受取保険金	-	2,500
その他	21,073	14,336
営業外収益合計	28,663	24,222
営業外費用		
支払利息	32,754	32,044
その他	1,549	1,477
営業外費用合計	34,304	33,521
経常利益又は経常損失()	72,487	5,075
特別利益		
固定資産売却益	149	3,374
投資有価証券売却益	51,580	-
特別利益合計	51,730	3,374
特別損失		
固定資産除却損	4,113	0
特別損失合計	4,113	0
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失()	24,870	8,449
法人税等	3,567	22,521
四半期純損失()	28,438	14,071

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形が、四半期会計期間末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成27年12月31日)
受取手形		210,566千円
支払手形		284,332 "
流動負債・その他(設備支払手形)		6,024 "

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
減価償却費	111,163千円	117,224千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	製造事業	不動産事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	2,514,869	396,991	2,911,860
セグメント間の内部売上高又は振替高			
計	2,514,869	396,991	2,911,860
セグメント利益又は損失()	353,793	286,947	66,846

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額(営業利益)との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	製造事業	不動産事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	2,850,580	416,662	3,267,242
セグメント間の内部売上高又は振替高			
計	2,850,580	416,662	3,267,242
セグメント利益又は損失()	290,414	304,789	14,375

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額(営業利益)との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は以下のとおりであります。

項目	前第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額()	2円55銭	1円27銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	28,438	14,071
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	28,438	14,071
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,163	11,049

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 2月12日

株式会社宇野澤組鐵工所
取締役会 御中

明治アーク監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 寺 田 一 彦 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 来 田 弘 一 郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社宇野澤組鐵工所の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第124期事業年度の第3四半期会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成27年4月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社宇野澤組鐵工所の平成27年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。